

過去の災害で学ぶ「自然災害伝承碑」

～災害から身を守る、先人からの教え～

「自然災害伝承碑」とは？

- ◆ 過去に発生した地震、津波、洪水、土砂災害、高潮、火山災害等の**自然災害に関する事柄**（災害の様相や被害の状況など）が記載されている**石碑**や**モニュメント**です。
- ◆ 自然災害伝承碑の情報を**地理院地図**等に**掲載**することにより、過去の**自然災害の教訓**を**地域の方々**に適切にお伝えするとともに、教訓を踏まえた**的確な防災行動**による**被害の軽減**を目指します。

取組のきっかけ

平成30年7月豪雨（西日本豪雨）

広島県坂町
小屋浦地区



提供：大阪府警察

明治40年（1907）7月に発生した土砂災害の被災状況を伝える石碑が建立されていたが、**伝承内容が十分には活かされず**

地理院地図



国土地理院で情報の整備・掲載を開始



地図記号

（地理院地図表示アイコン）



地理院地図

（自然災害伝承碑を表示）

地理院地図では、地図上のアイコンをクリックすることで、自然災害伝承碑の写真や災害名が見られます。さらに写真をクリックすると、災害種別、伝承内容などについても確認できます。

概要	
碑名	水害碑
災害名	洪水・土石流 (1907年7月15日)
災害種別	洪水・土砂災害
建立年	1910
所在地	広島県安芸郡坂町小屋浦四丁目
伝承内容	明治40年(1907)7月15日、数日来降り続いた豪雨により天地川や総頭川で土石流が発生した。この未曾有の大災害により、小屋浦地区では43戸の家屋がつぶれ、44名の命が奪われた。 関連外部サイトへのリンク集



ID:34309-002

掲載分布図

公開中

47都道府県558市区町村
1933基
(2023年7月27日時点)



自然災害伝承碑の活用事例

自然災害伝承碑が過去の自然災害を学ぶきっかけとなり、実際に過去の教訓が地域で活用されるよう、**当院HP**で**活用事例**を紹介しています。

学校における学習教材



地理・歴史や小学校**社会科**等の教材に利用することで、身近な災害履歴を学ぶ

地域探訪の目標物



歩こう会などの探訪コースの**目標物**とすることで、参加者が過去の災害の情報に触れる機会を創出

地図に掲載されていない自然災害伝承碑に関する情報がございましたら、管内の地方測量部・支所、もしくは該当市区町村へ情報提供をお願いいたします。

2023年7月27日作成

関東大震災関連の自然災害伝承碑



自然災害伝承碑が伝える関東大震災の教訓

関東大震災は、死者・行方不明者105,385*、全壊全焼流出家屋293,387*にも上る近代未曾有の大災害となりました。この災害を経験した先人は、後世に災禍をその教訓を伝えるための石碑を多く遺しました。国土地理院では関東大震災に関する自然災害伝承碑を114基公開しており（2023年7月27日時点）、その多様な災害様相や地理的分布を読み取ることができます。

*中央防災会議災害教訓の継承に関する専門調査会「1923関東大震災報告書-第1編-」から数値を引用

地震関連碑・地震火災関連碑

大正大震火災石原町遭難者碑

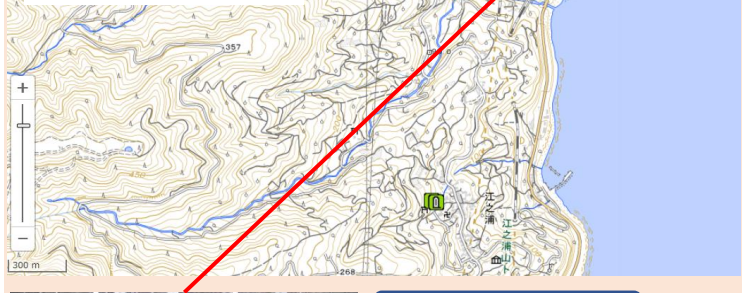


伝承内容 大正12年(1923)9月1日の関東大地震で起きた大火災は都市の大部分を焦土にした。なかでも本所区と深川区の被害が最も甚だしく、無数の人命が奪われた。当時の本所区石原町民約8000人中およそ7000人が焼死した。昭和6年(1931)移設。

関東大震災に関連する自然災害伝承碑 (2023年7月27日時点)



神奈川県小田原市 根府川周辺



土砂災害関連碑
大震災殃死者供養塔
伝承内容 大正12年(1923)9月1日午前11時58分に発生した関東大震災により、根府川地区では山津波の影響で200余名が犠牲となった。

津波関連碑

大正12年関東大震災つなみ浸水地点



伝承内容 大正12年(1923)9月1日午前11時58分に発生した関東大震災では、強い揺れにより家屋や橋梁が倒壊し、沿岸を高さ約5m(石碑の地点は標高4.7m)の津波が二度にわたって襲った。旧宇佐美村では家屋全壊33戸、半壊67戸、家屋流失111戸の被害となった。

箱根ジオパークホームページでの自然災害伝承碑の紹介



箱根ジオパークホームページ
小田原市内の自然災害伝承碑の位置図
自然災害伝承碑について、「当時の被災状況を伝えるだけでなく、当時の被災場所に建てられていることが多く、**伝承碑を地図を通じて伝えることは、地域住民による防災意識の向上に役立つものと期待される。**」と紹介されています。